

I はじめに

全国の自殺者数は平成 10 年を境に急増し、毎年 3 万人前後の高い水準で推移している。特に中高年男性の自殺数の増加が大きく、景気の動向が大きな影響を与えていることが指摘されている。

国では、平成 19 年 6 月に自殺総合対策大綱を定め、平成 28 年までに自殺死亡率を平成 17 年の 20% 以上減少させることを目標に掲げた。平成 22 年度には、2 月に「いのちを守る自殺対策緊急プラン」を策定し同プランに基づき 3 月から「自殺対策強化月間」を実施した。

このように、政府を中心に、様々な悩みや問題を抱えた人に届く「当事者本位」の施策の展開ができるよう、各種の対策が取り組まれている。

千葉県では平成 18 年度から千葉県自殺対策連絡協議会を設置し、さまざまな分野の関係機関、団体等が連携して自殺対策に取り組んできたが、その具体的な取り組みを計画的に行うため、平成 22 年度に千葉県自殺対策推進計画を策定した。

千葉県自殺対策推進計画では、自殺の統計の充実が取り組みの 1 つに掲げられていることを踏まえ、千葉県及び県内の健康福祉センター(保健所)・市町村等が自殺対策を推進するための基礎資料として、千葉県における自殺に関連する統計のとりまとめを行った。

II 方法

千葉県の自殺の現状とその関連要因の把握のため、既存の統計資料を用いてデータの整理を行なうと共に、年齢調整死亡率、標準化死亡比を算出した。

1) 用いた統計資料

(1) 人口 (H20～H24)

国：厚生労働省人口動態調査 人口動態統計「年次、性、年齢別人口、総数、男、女」

統計局発行「推計人口年齢 (5 歳階級), 男女, 月別人口ー総人口, 日本人人口」

県及び市町村：千葉県総合企画部統計課 「千葉県年齢別・町丁字別人口調査における登録人口」
(H20～H24)

(2) 自殺死亡数

国：厚生労働省人口動態調査 「死亡数, 性・年齢 (5 歳階級)・死因 (死因簡単分類) 別」
(H20～H24)

県：「千葉県衛生統計年報」(H20～H24)

市町村：千葉県健康福祉部健康福祉指導課 「人口動態調査」(H20～H24)

(3) 平成 24 年地域における自殺の基礎資料 (内閣府 自殺対策推進室)

<http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/tsukibetsu-h24.html> (2014/01/20 確認)

(4) 平成 24 年中における自殺の概況 (内閣府自殺対策推進室)

<http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/h24.html> (2014/01/20 確認)

(5) 内閣府：平成 24 年版「自殺対策白書」

<http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/whitepaper/index-w.html> (2014/01/20 確認)

(6) 総務省統計局：労働力調査 都道府県別結果「モデル推計による都道府県別結果 完全失業率」

http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001007576&cycleCode=0&requestSender=dsearch (2014/01/20 確認)

(7) 精神保健福祉センターへの自殺に関する相談

千葉県衛生統計年報（平成 20 年～24 年）

第 7 部「衛生行政報告例」 精神保健福祉センターにおける相談等

(8) 千葉いのちの電話

電話相談件数：2010 年度問題内容別相談件数状況

<http://www.chiba-inochi.jp/denwa.html> (2014/03/17 確認)

インターネット相談件数：相談活動レポート 年代別相談件数

<http://www.chiba-inochi.jp/internet.html> (2014/03/17 確認)

2) 年齢調整死亡率・標準化死亡比の算出

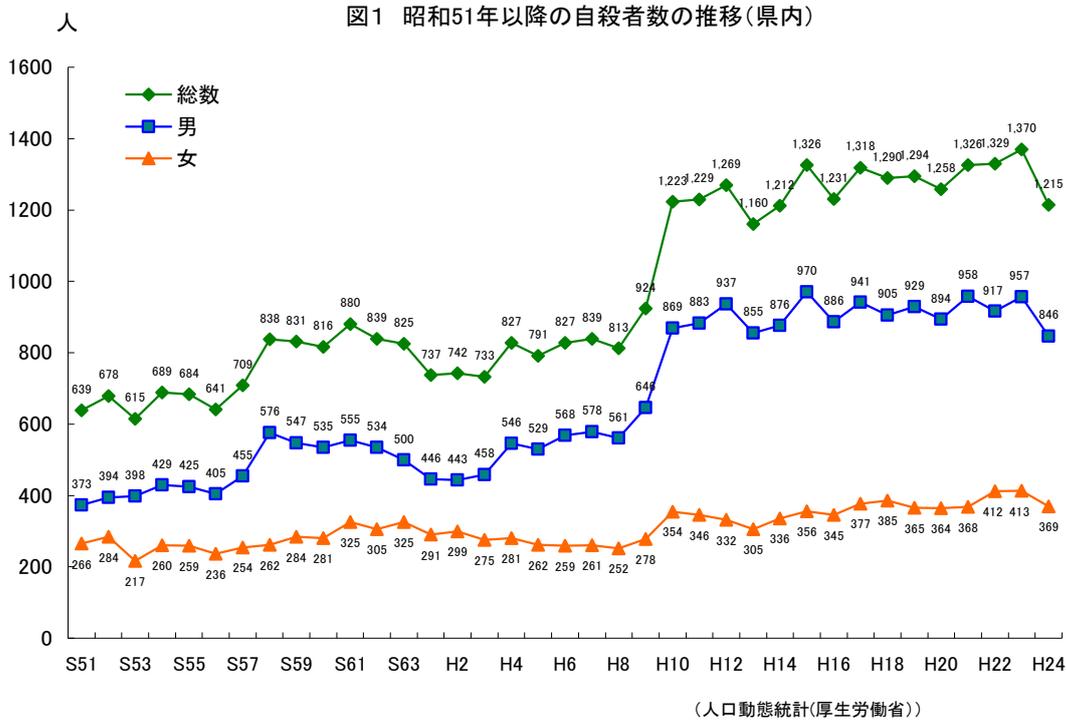
千葉県、県保健所管内別、市町村別の標準化死亡比、年齢調整死亡率の算出では、死亡数、人口とも平成 20 年から 24 年までの 5 ヶ年の合計数を用いて算出した。SMR 算出の基準人口集団の年齢階級別死亡率は当該年分（5 年分）の全国人口値を、年齢調整死亡率の基準人口は昭和 60 年モデル人口を用いた。

I 自殺の現状

1 自殺者の状況

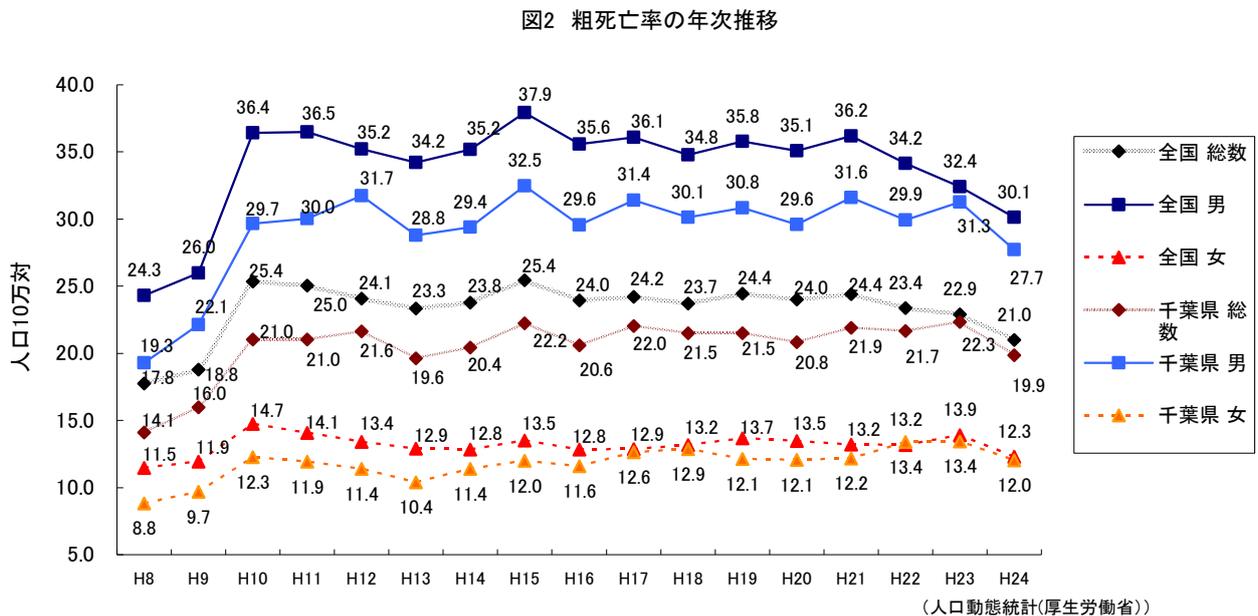
厚生労働省の人口動態統計によると、本県の自殺者数は平成 10 年以降 1,300 人前後で推移している。平成 17 年から減少傾向がみられていたが、平成 21 年は 1,326 人と増加し、平成 22 年は 1,329 人でほぼ横ばいの状況から平成 23 年は 1,370 人に増加し、平成 24 年は 1,215 人と減少した。(図 1)

平成 24 年の自殺者数は交通事故死亡者数 (290 人) の約 4.2 倍であり、病気以外の死亡 (死因分類において「傷病および死亡の外因」に分類される全ての死亡) の 39.4% を占めている。



2 自殺死亡率の推移

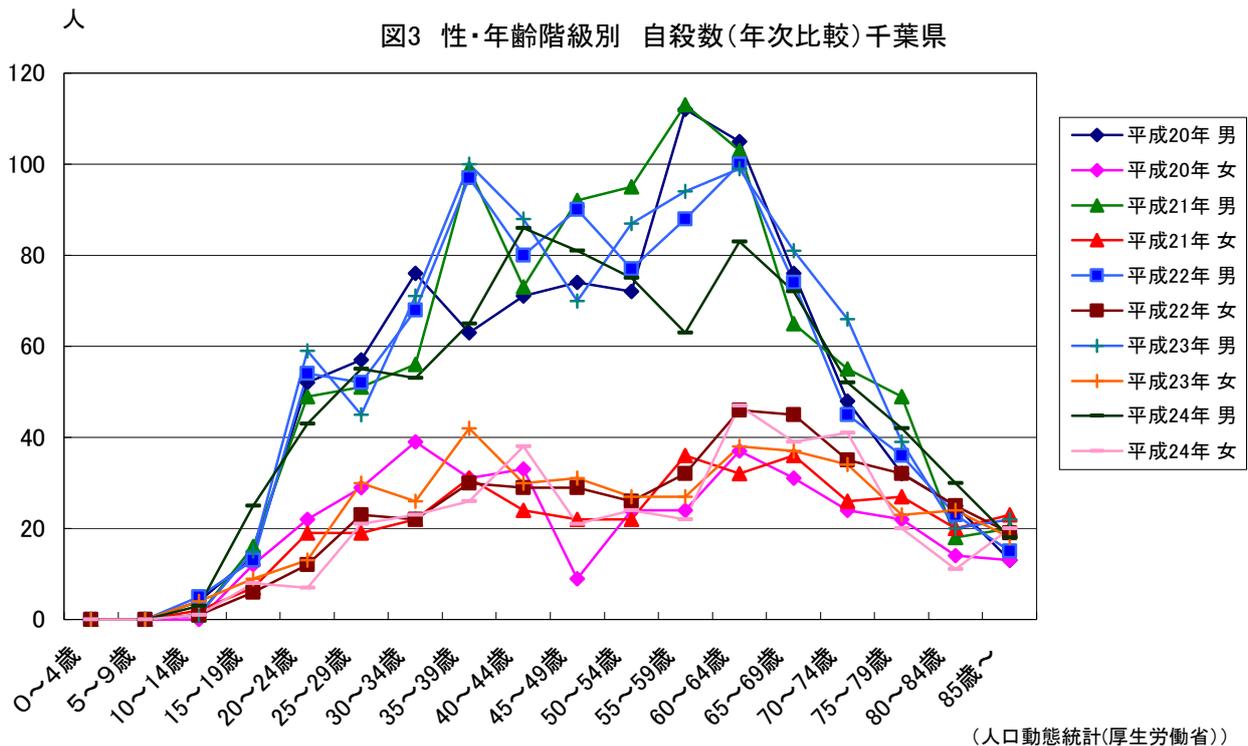
人口動態統計に基づく人口 10 万人当りの自殺者数 (以下、粗死亡率という。) は 19.9 と全国の 21.0 より低い値だが、その動向は全国とほぼ同様である。(図 2)



3 性別・年齢別の状況

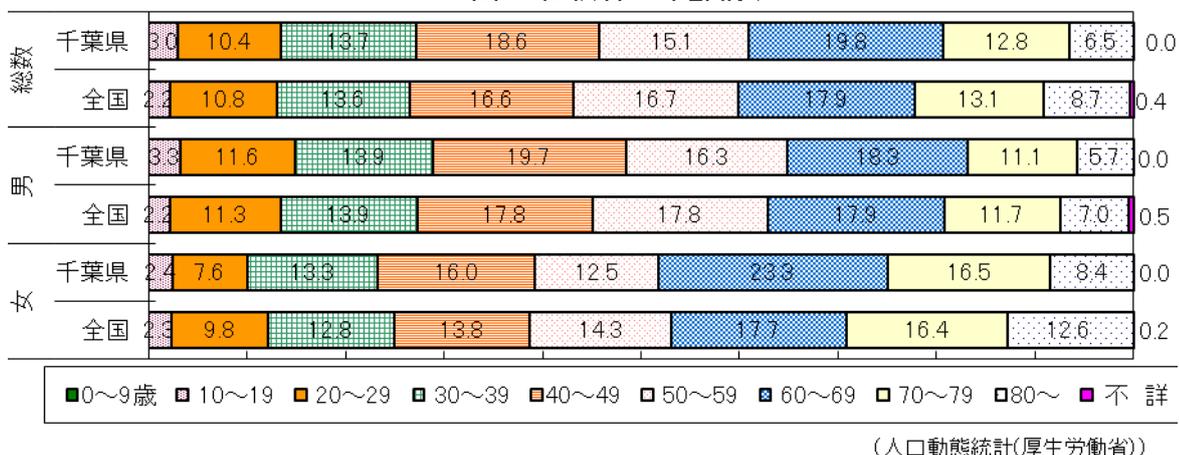
平成20年から24年の性・年齢別の自殺状況をみると、男女とも年齢別の自殺状況に年次による大きな変化はなく、最も多い年代は55～64歳であり、30～44歳が続いている。20歳未満及び75歳以降では自殺数の男女差は小さいが、55～64歳では男性が女性の約2.1倍である。年齢別の自殺数をみると、男性では65歳以降は年齢が高くなるに従い自殺数が減少している、女性では男性のような年齢に伴う顕著な現象は見られない。自殺者の約7割は男性であり、その数は女性の約2.3倍である。

(図3)



平成24年の自殺者の年齢構成を全国と比較すると、男女とも全国とほぼ同様である。男性は30～59歳の働き盛りの年代が全体の約50%を占めている。女性は60歳以上が約48%であり、男性に比べて高齢者の割合が高い。(図4)

図4 自殺者の年齢構成



平成 24 年人口動態統計による年齢階級別の死因別順位では、自殺による死亡は全体では 7 位だが、年齢階級別にみると総数で 10～39 歳は 1 位、40～44 歳は 2 位、45～54 歳は 3 位、55～64 歳は 4 位と若年から中高年までの各年代において自殺による死亡割合が高い。特に、15～34 歳までの各階級では男女とも自殺が 1 位であり、この傾向は平成 14 年以降、大きな変化はない。(表 1)

表 1 平成 24 年の自殺の年齢階級別死因順位 (千葉県)

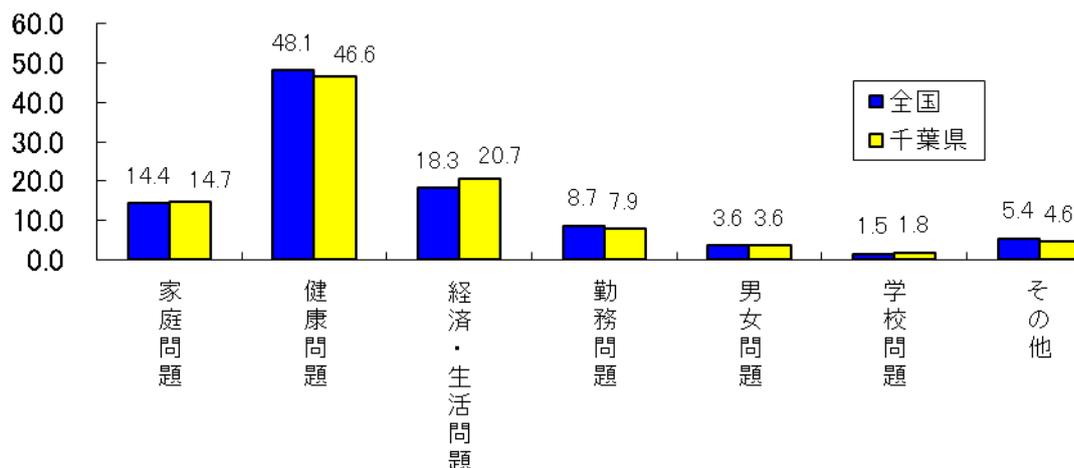
	10 14 歳	15 19 歳	20 24 歳	25 29 歳	30 34 歳	35 39 歳	40 44 歳	45 49 歳	50 54 歳	55 59 歳	60 64 歳	65 69 歳	70 74 歳
男	1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	5	6	10
女	3	1	1	1	1	2	2	2	4	4	4	5	6
総数	1	1	1	1	1	1	2	3	3	4	4	6	7

*10 歳未満は自殺者なしのため省略。

4 原因・動機別の状況

警察による自殺統計は、自殺の原因や動機が特定できた者における原因・動機(一人につき 3 つまで計上)が集計されている。平成 24 年の内閣府自殺対策推進室の自殺統計によると、住所地で集計した自殺者 1,250 人のうち、原因・動機の確定できたものにおける回答延べ数は 1,197 件であった。自殺者数に対し各原因・動機の占める割合は、健康問題が 46.6%、経済・生活問題 20.7%、家庭問題 14.7%、勤務問題 7.9%であった。原因・動機の状況は全国と同様であった。(図 5)

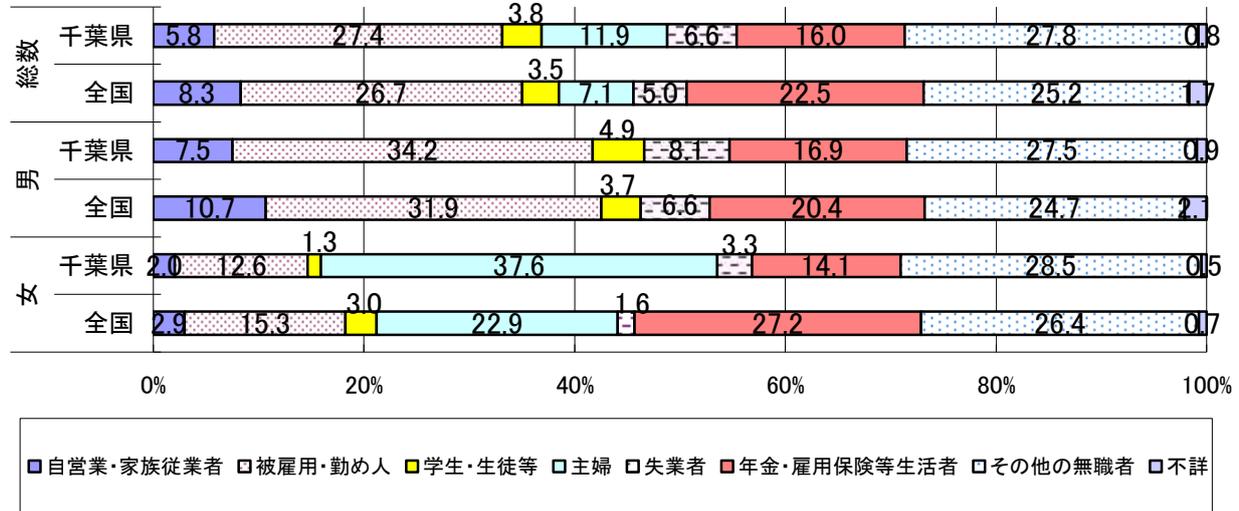
図5 H24年自殺の原因・動機の割合(不詳を除く)(全国・千葉県)



5 職業別の状況

平成 24 年の内閣府自殺対策推進室の自殺統計から自殺者の職業をみると、男女ともほぼ全国と同様の傾向である。総数ではその他の無職者が第 1 位で 27.8%、次いで被雇用・勤め人が 27.4% を占めていた。男女別ではその他の無職者、男 27.5%、女 28.5%、及び主婦 37.6% が全国より多く、年金・雇用保険等生活者が、男 16.9% 女 14.1% と全国より少なかった。(図 6)

図6 自殺者の性別・職業(全国・千葉県)



6 地域別の状況

1) 保健所別の状況

平成 20 年から 24 年の 5 年間ににおける保健所別の自殺数で上位 5 位に含まれるのは、男性は千葉市、松戸、印旛、船橋市、市川、女性は松戸、千葉市、印旛、市川、船橋市であり、総数では千葉市、松戸、印旛、船橋市、市川の順であった。習志野、市川、船橋市、柏市では男性より女性の方が県全体に占める割合が 1 ポイント以上高くなっていた。

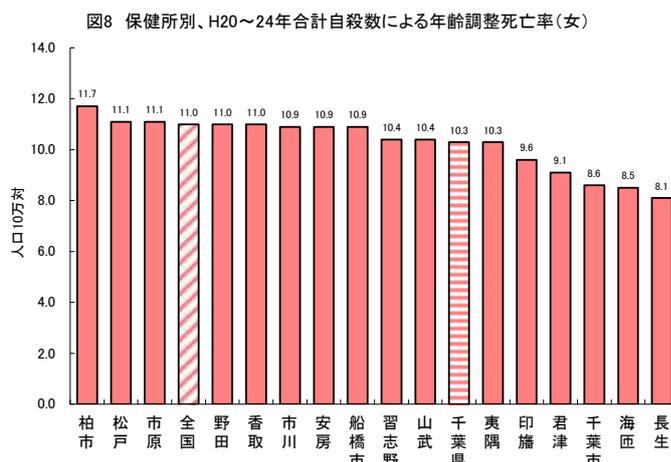
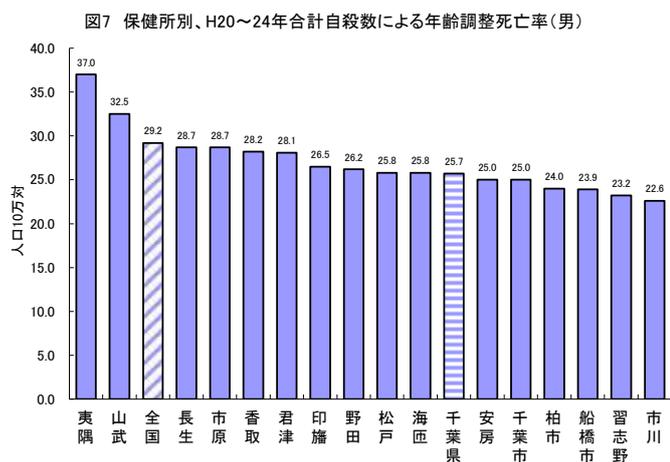
表 2 平成 20 年から 24 年の性別、保健所別自殺数・男女比、年齢調整死亡率 (人口 10 万対)

		千葉県	習志野	市川	松戸	野田	印旛	香取	海匝	山武
自殺数	総数	6498	446	602	833	171	750	154	206	274
	男	4572	299	404	575	121	545	107	141	204
	女	1926	147	198	258	50	205	47	65	70
自殺数男女比	男/女	2.4	2.0	2.0	2.2	2.4	2.7	2.3	2.2	2.9
県に占める割合 (%)	総数	100.0	6.9	9.3	12.8	2.6	11.5	2.4	3.2	4.2
	男	100.0	6.5	8.8	12.6	2.6	11.9	2.3	3.1	4.5
	女	100.0	7.6	10.3	13.4	2.6	10.6	2.4	3.4	3.6
年齢調整死亡率	総数	18.1	16.9	16.9	18.5	18.6	18.1	19.8	17.3	21.6
		長生	夷隅	安房	君津	市原	千葉市	船橋市	柏市	
自殺数	総数	176	119	149	365	337	907	605	404	
	男	128	89	100	273	243	668	408	267	
	女	48	30	49	92	94	239	197	137	
自殺数男女比	男/女	2.7	3.0	2.0	3.0	2.6	2.8	2.1	1.9	
県に占める割合 (%)	総数	2.7	1.8	2.3	5.6	5.2	14.0	9.3	6.2	
	男	2.8	1.9	2.2	6.0	5.3	14.6	8.9	5.8	
	女	2.5	1.6	2.5	4.8	4.9	12.4	10.2	7.1	
年齢調整死亡率	総数	18.6	24.0	17.9	18.8	20.2	16.9	17.5	17.9	

出典：人口動態統計 (厚生労働省)

自殺者の男女比をみると、県全体の 2.4 (男/女) を上回り、男性の自殺が県全体より多い地域 (比が 2.9 以上) は、山武、夷隅、君津であり、反対に女性の自殺が県全体より多い地域 (比が 2.0 以下) は習志野、市川、安房、柏市であった。(表 2)

年齢調整自殺死亡率 (人口の年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率) でみると、総数で県の値を上回っているのは、夷隅、山武、市原、香取、君津、野田、長生、松戸であり、性別にみると、男性で夷隅、山武、長生、市原、香取、君津、印旛、野田、松戸、海匝であり、女性では柏市、松戸、市原、野田、香取、市川、安房、船橋市、習志野、山武であった。山武、市原、香取、野田、松戸では男女とも県の値を上回っていた。(表 2、図 7~8)



年齢階級別の粗死亡率を性別で比較すると、性・年齢階級別の粗死亡率は地域により大きな違いがみられた。総数では、死亡率が上位3位内であったのは、35歳未満は松戸、夷隅、柏市、35~64歳は夷隅、山武、香取、65歳以上は夷隅、市原、野田であった。(表 3)

表 3 平成 20 年から 24 年の自殺数に基づく、年齢階級別、保健所別粗死亡率 (人口 10 万対)

	千葉県	習志野	市川	松戸	野田	印旛	香取	海匝	山武
35歳未満	11.4	10.5	11.8	13.0	11.2	11.4	10.7	9.4	11.6
35~64歳	26.1	23.1	23.3	26.3	25.8	26.2	31.5	27.8	33.8
65歳以上	26.6	27.7	26.0	25.2	32.0	27.8	30.2	21.1	25.9
	長生	夷隅	安房	君津	市原	千葉市	船橋市	柏市	
35歳未満	11.9	12.8	11.3	10.7	10.9	9.7	11.6	12.8	
35~64歳	24.6	36.4	24.2	27.2	30.3	25.1	25.8	26.5	
65歳以上	30.3	33.6	26.2	30.3	32.4	23.7	23.6	21.4	

性別にみると、35歳未満の男性は夷隅、長生、山武、女性は香取、野田、市川、35~64歳での男性は夷隅、山武、香取、女性は夷隅、柏市、山武、65歳以上の男性は夷隅、君津、野田、女性は市原、長生、香取がそれぞれ上位3位に入っていた。年齢階級別の粗死亡率をみると、すべての地域において男女とも35歳未満の粗死亡率がもっとも低かった。35~64歳と65歳以上の粗死亡率を比べると、男性では習志野、野田、長生、安房、君津の保健所管内で、女性では山武以外の全ての保健所管内で、65歳以上の粗死亡率が35~64歳の粗死亡率を上回っていた。(図 9~14)

図9 H20～24年保健所別、35歳未満粗死亡率（男）

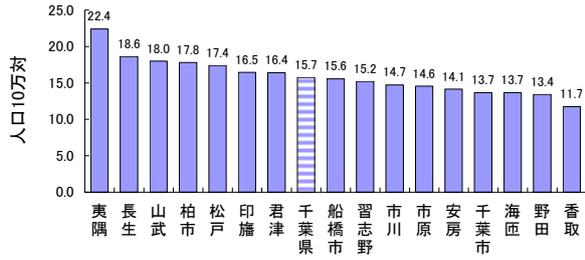


図10 H20～24年保健所別、35歳未満粗死亡率（女）

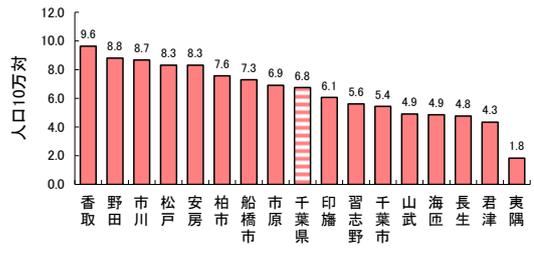


図11 H20～24年保健所別、35～64歳粗死亡率（男）

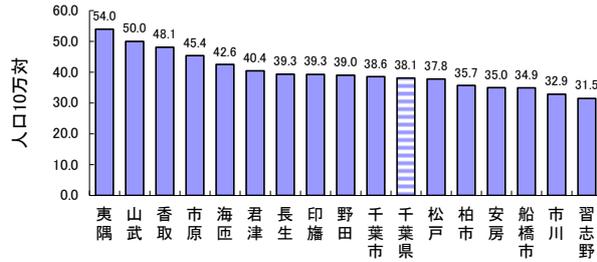


図12 H20～24年保健所別、35～64歳粗死亡率(女)

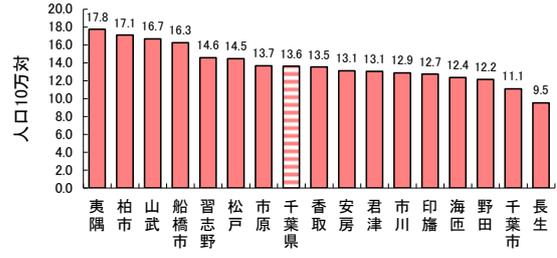


図13 H20～24年保健所別、65歳以上粗死亡率(男)

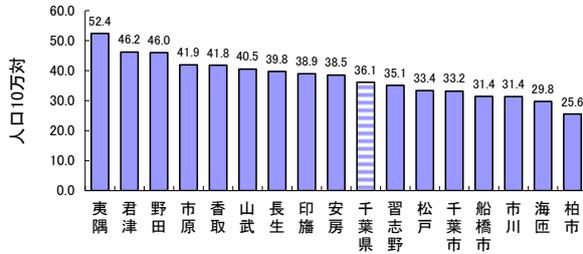
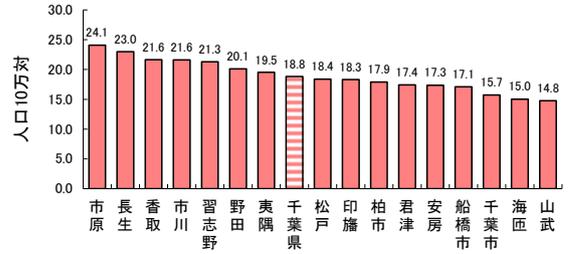


図14 H20～24年保健所別、65歳以上粗死亡率(女)



2) 市町村別の状況

平成20年から24年の5年間における市町村別の自殺数で上位6位に含まれるのは、男、女、総数とも同じであり、6市で全体の約50%を占めていた。1位の千葉市から6位の市原市までは男、女とも同じであったが、7位以下では入れ替わりがみられた。(表4)

表4 平成20年から24年の自殺数に基づく、自殺数の上位10市町村

	総数		男		女				
	人数	%	人数	%	人数	%			
	千葉県	6498	100.0	千葉県	4572	100.0	千葉県	1926	100.0
1	千葉市	907	14.0	千葉市	668	14.6	千葉市	239	12.4
2	船橋市	605	9.3	船橋市	408	8.9	船橋市	197	10.2
3	松戸市	529	8.1	松戸市	375	8.2	松戸市	154	8.0
4	市川市	453	7.0	市川市	307	6.7	市川市	146	7.6
5	柏市	404	6.2	柏市	267	5.8	柏市	137	7.1
6	市原市	337	5.2	市原市	243	5.3	市原市	94	4.9
7	佐倉市	195	3.0	佐倉市	141	3.1	流山市	63	3.3
8	野田市	171	2.6	野田市	121	2.6	八千代市	59	3.1
9	八千代市	170	2.6	八千代市	111	2.4	佐倉市	54	2.8
10	流山市	167	2.6	木更津市	109	2.4	浦安市	52	2.6
	その他	2560	39.4	その他	1822	39.9	その他	731	38.0

5年間の合計自殺数の少ない市町村をみると、男性は神崎町が4名ともっとも少なく、睦沢町、大多喜町、鋸南町が7名、一宮町、長柄町が8名、長生村と長南町が9名でこれらの町では1年間の自殺数は平均2名未満であった。女性では長生村1名、神崎町、芝山町、一宮町、長南町、大多喜町、御宿町が2名、長柄町が3名であり、これらの町の1年間の自殺数は1名未満であった。

5年間の自殺数から求めた自殺年齢調整死亡率は、最も高い値は男性64.7、女性24.5、最も低い値は男性14.6、女性1.4であった。5年間の人口の総和が男女とも10万人以上の35市町村と10万人未満の19市町村に分け、年齢調整死亡率の高い5市町村、低い5市町村をみると、人口10万人以上の市町村では最も少ない市と最も多い市では男性、女性ともに2倍を超える開きが見られた。人口の少ない市町村では自殺数が少なくても年齢調整死亡率が高くなっており、市町村間の比較にはその点に注意する必要がある。(表5、図15)

表5 平成20～24年の合計でみた市町村別自殺年齢調整死亡率の順位

1) 人口の和が男女とも10万人以上の35市町村について

(1) 低い5市町村

順位	市町村名	男		市町村名	女	
		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数
1	匝瑳市	17.9	26	君津市	5.9	15
2	成田市	20.5	75	銚子市	7.5	22
3	八千代市	21.0	111	香取市	8.2	25
4	白井市	21.5	39	白井市	8.3	15
5	浦安市	22.2	97	山武市	8.4	18

(2) 高い5市町村

順位	市町村名	男		市町村名	女	
		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数
1	八街市	39.8	90	匝瑳市	14.9	22
2	いすみ市	38.6	46	東金市	13.8	24
3	山武市	34.7	61	流山市	13.5	63
4	東金市	32.8	56	南房総市	13.1	17
5	銚子市	32.0	61	鎌ヶ谷市	12.7	44

2) 人口の和が男女とも10万人未満の19市町村について

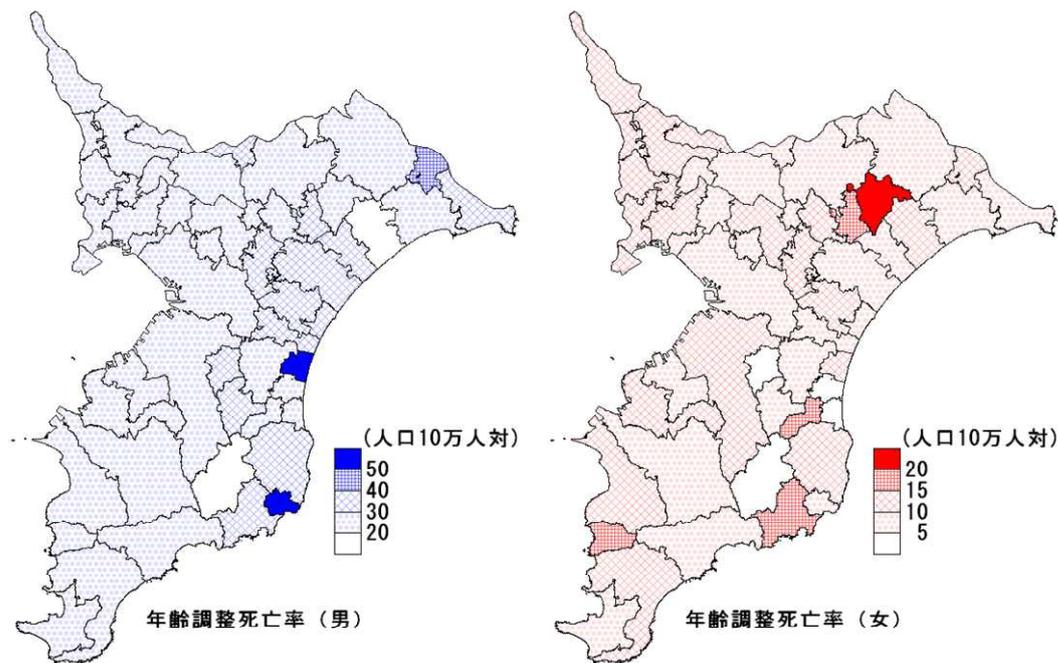
(1) 低い5市町村

順位	市町村名	男		市町村名	女	
		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数
1	神崎町	14.6	4	長生村	1.4	1
2	大多喜町	17.9	7	一宮町	1.4	2
3	多古町	20.0	12	大多喜町	1.8	2
4	鴨川市	20.1	23	長柄町	2.0	3
5	長生村	21.3	9	鴨川市	8.5	9

(2) 高い5市町村

順位	市町村名	男		市町村名	女	
		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数		年齢調整死亡率 (人口10万対)	人数
1	御宿町	64.7	11	多古町	24.5	13
2	白子町	58.5	22	鋸南町	17.6	7
3	東庄町	45.1	21	睦沢町	16.5	6
4	長南町	38.0	9	勝浦市	15.7	8
5	栄町	37.8	25	芝山町	15.0	2

図 15 平成 20～24 年の合計でみた市町村別自殺年齢調整死亡率



平成 20～24 年自殺死亡について、35 歳未満、35～64 歳、65 歳以上で 3 区分し、年齢区分別の粗死亡率を性別に市町村で比較した。35 歳未満の粗死亡率が低い市町村、高い市町村ともに、比較的人口の少ないところが多くみられた。男女とも 65 歳以上の粗死亡率の高い市町村は、いずれも人口の少ない町村であり、1 名の死亡の増加により粗死亡率が大きく変動することから、厳密にはこれらの地域の高齢者の自殺死亡率が高いとは判断できないと考えられる。(表 6～8、図 16～17)

表 6 平成 20～24 年自殺死亡数における、性・年齢区分別粗死亡率の市町村比較

1) 粗死亡率が低い市町村 (同順位を除く 6 位まで)

	35 歳未満		35～64 歳		65 歳以上	
	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率
男性						
1	神崎町、多古町、長生村、睦沢町、	0.0	一宮町	15.6	酒々井町	9.2
2	匝瑳市	5.9	大多喜町	17.7	大網白里町	15.9
3	富津市	7.6	神崎町	26.6	長柄町	21.2
4	栄町	10.1	八千代市	27.1	袖ヶ浦市	22.1
5	東金市	10.4	匝瑳市	27.3	柏市	25.6
6	鴨川市	11.1	鴨川市	27.9	印西市	25.8
女性						
1	山武市、いすみ市、酒々井町、神崎町、九十九里町、横芝光町、一宮町、長生村、白子町、長柄町、大多喜町、御宿町	0.0	芝山町、一宮町、睦沢町、長柄町、長南町、大多喜町	0.0	芝山町、長生村、御宿町	0.0
2	君津市	1.3	銚子市	5.4	横芝光町	4.8
3	富里市	2.1	東庄町	6.1	君津市	6.9
4	匝瑳市	3.1	長生村	6.3	鴨川市	9.2
5	白井市	3.4	栄町	7.5	四街道市	9.9
6	鴨川市	3.6	大網白里町	9.0	八街市	10.3

2) 粗死亡率が高い市町村 (6位まで)

	35歳未満		35～64歳		65歳以上	
	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率	市町村名	粗死亡率
男性						
1	御宿町	64.4	白子町	92.3	芝山町	131.7
2	長柄町	46.8	御宿町	77.9	白子町	85.2
3	九十九里町	40.8	東庄町	70.4	八街市	77.7
4	長南町	29.8	栄町	64.9	勝浦市	70.3
5	一宮町	27.7	山武市	61.0	東庄町	65.1
6	銚子市	24.6	いすみ市	56.2	君津市	61.9
女性						
1	芝山町	31.2	多古町	38.0	睦沢町	78.3
2	睦沢町	18.7	匝瑳市	27.1	鋸南町	51.1
3	鋸南町	17.9	御宿町	25.6	長柄町	48.2
4	東庄町	17.5	鎌ヶ谷市	21.9	白子町	38.1
5	多古町	16.8	東金市	21.6	栄町	36.9
6	長南町	15.5	九十九里町、勝浦市	21.1	多古町	35.9

図 16 平成 20～24 年の性・年齢区分別自殺粗死亡率(男)

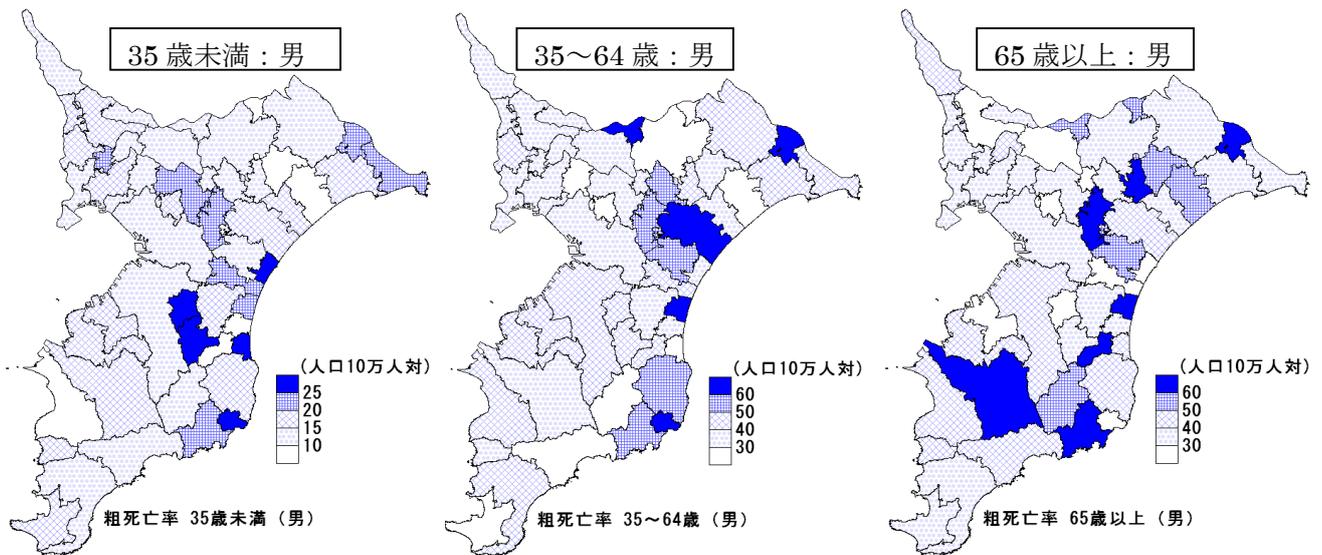


表 7 年齢区分別・粗死亡率区分別の該当市町村数(男性)

35歳未満		35～64歳		65歳以上	
粗死亡率	市町村数	粗死亡率	市町村数	粗死亡率	市町村数
$25 \leq x$	5	$60 \leq x$	5	$60 \leq x$	7
$20 \leq x < 25$	8	$50 \leq x < 60$	5	$50 \leq x < 60$	6
$15 \leq x < 20$	15	$40 \leq x < 50$	14	$40 \leq x < 50$	10
$10 \leq x < 15$	20	$30 \leq x < 40$	21	$30 \leq x < 40$	22
$x < 10$	6	$x < 30$	9	$x < 30$	9

図 17 平成 20～24 年の性・年齢区分別自殺粗死亡率(女)

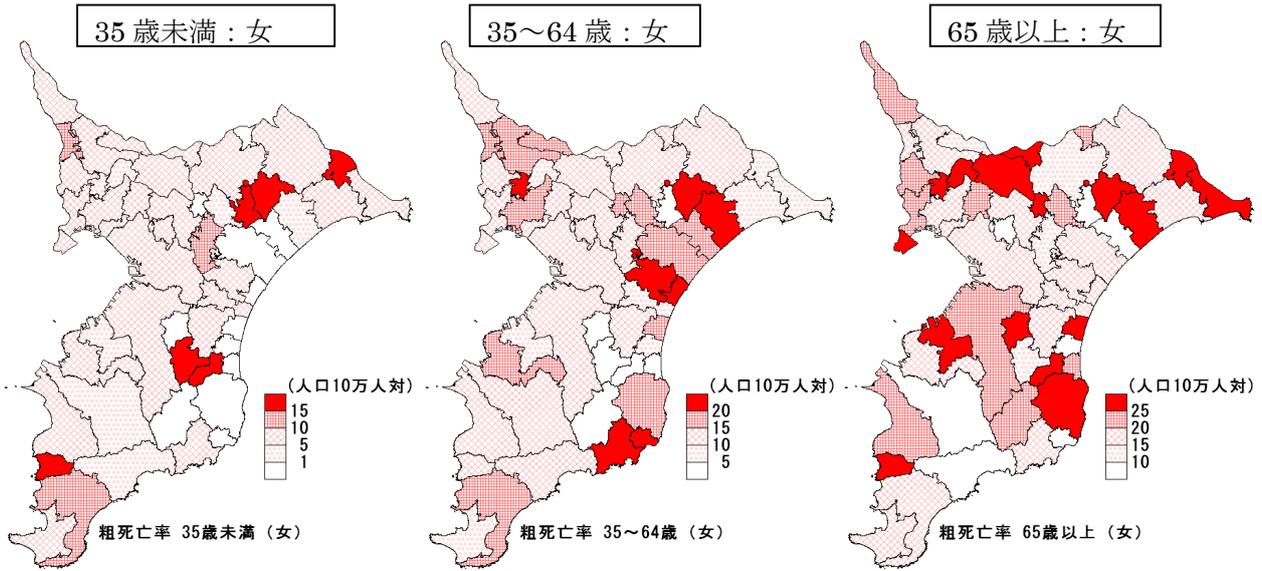


表 8 年齢区分別・粗死亡率区分別の該当市町村数(女性)

35歳未満		35～64歳		65歳以上	
粗死亡率	市町村数	粗死亡率	市町村数	粗死亡率	市町村数
$15 \leq x$	6	$20 \leq x$	7	$25 \leq x$	16
$10 \leq x < 15$	3	$15 \leq x < 20$	12	$20 \leq x < 25$	10
$5 \leq x < 10$	26	$10 \leq x < 15$	20	$15 \leq x < 20$	17
$1 \leq x < 5$	7	$5 \leq x < 10$	9	$10 \leq x < 15$	4
$x < 1$	12	$x < 5$	6	$x < 10$	7

7 月別自殺者の推移

月別の自殺者数について、平成 20 年から 24 年までを合計した値の動向を千葉県と全国で比較すると、千葉県は 3 月、7 月、10 月にピークがみられるのに対し、全国では 3 月、5 月、10 月がピークであり、千葉県の月別の動向は全国とは少し異なっていた。(図 18～19)

図 18 H20～24年における、性別月別自殺数(千葉県)

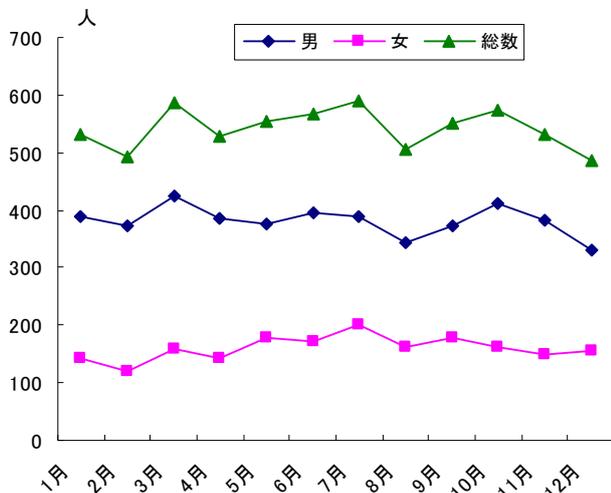
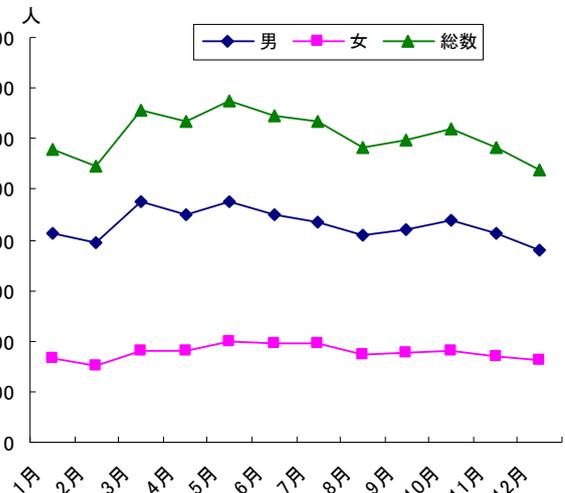


図 19 H20～24年における、性別月別自殺数(全国)

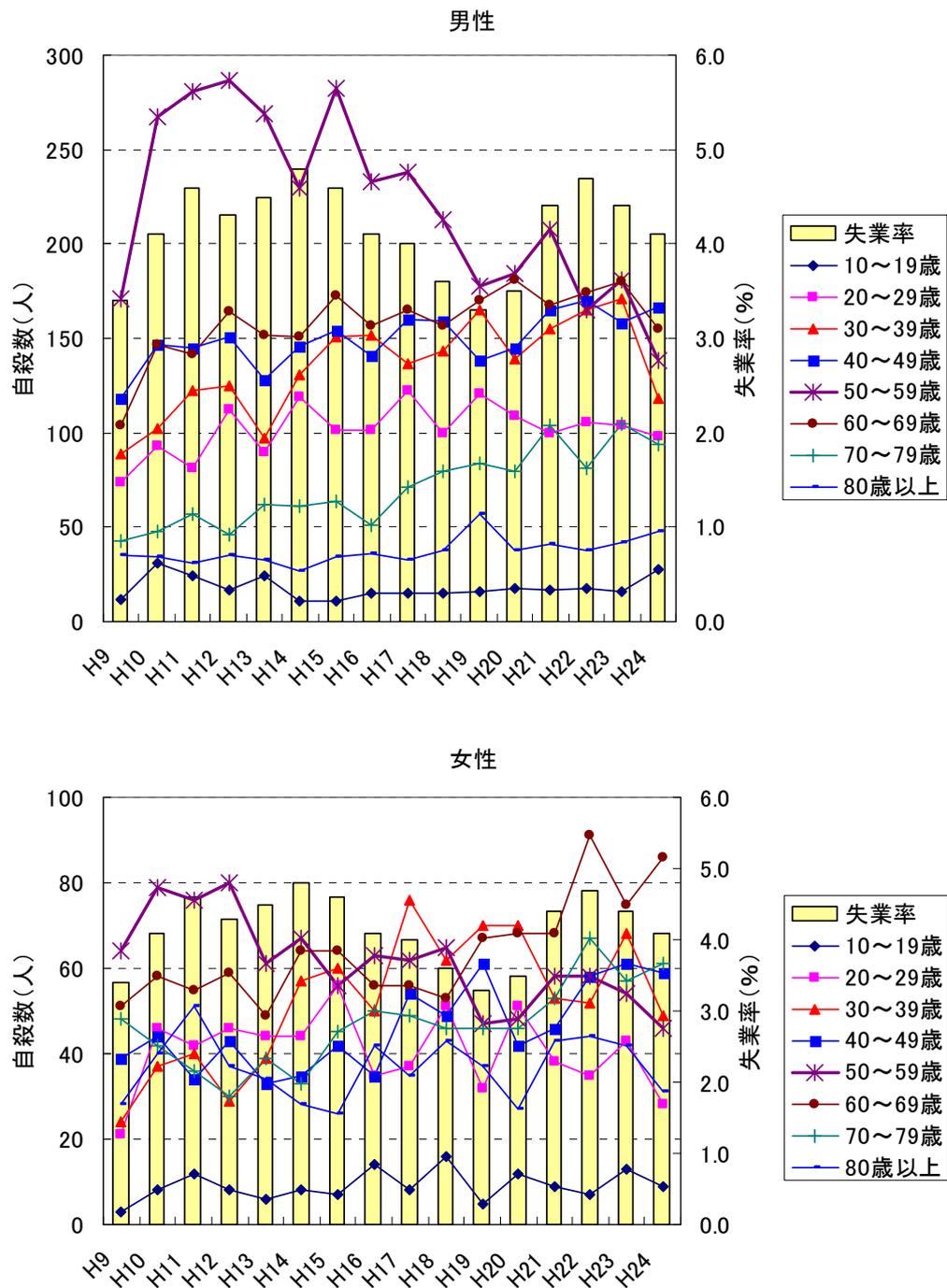


8 自殺との関連が指摘されている事象の状況

1) 完全失業率

経済的要因が自殺死亡の動機・原因に占める割合は高い。そこで、千葉県における完全失業率と性・年齢階級別死亡数の年次推移を平成9年から24年の16年間について検討した。完全失業率の動向と死亡数の推移が最も類似していたのは男性の50歳代であり、平成15年以降の完全失業率の動向と自殺死亡数の動向はほぼ同様であった。女性では就労率の高い20歳代、50歳代においても、男性のような完全失業率と自殺死亡数の間には関連がみられなかった。(図20)

図20 完全失業率と性別の年齢区分別自殺数の年次推移（千葉県）



2) 精神保健に関する電話相談等

県精神保健福祉センターでは、精神保健に関する相談や電話相談を実施している。延べ相談件数のうち自殺に関する相談は、平成 24 年度は 57 件、平成 23 年 48 件、平成 22 年 77 件であった。相談内容の分類に変更があったため、従来との比較はできないが、うつ・うつ状態、心の健康づくりに関する相談の増加が目立っていた。

電話相談では、24 年度は相談件数（延べ数）が 9197 件と平成 23 年の 8027 件より増加した。内容ではその他が最も多く 35.1%、心の健康づくり 30.0%、うつ・うつ状態 12.7%であり、心の健康づくりや自殺に関する悩みや心配を抱えている人が数多くいることがうかがわれた。（表 9）

表 9 精神保健福祉センターへの相談内容と件数

(1) 対面相談

対面相談 (被指導人員)	実人員	延 人 員										計の再掲				
		健	老人 精神保	社会 復帰	アル コール	薬物	思春 期	心の健康 づくり	うつ 状態	うつ 状態	その他	計	り ひき こも	発 達障 害	自 殺関 連	犯 罪被 害
		老人 精神保	社会 復帰	アル コール	薬物	思春 期	心の健康 づくり	うつ 状態	うつ 状態	その他						
H19	427	534	2,823	10	63	9	33		46	3,518	370		3	2		
H20	405	602	2,666	5	80	12	21		36	3,422	421		34	5		
H21	1,364	628	2,608	96	69	118	291	709	417	4,936	330	68	76	5		
H22	1,317	85	670	97	89	137	589	227	387	2,281	80	22	77	2		
H23	1,227	60	583	94	15	135	723	384	403	2,397	58	17	48	7		
H24	1,294	40	468	83	35	184	408	166	673	2,057	60	19	57	2		

(2) 電話相談

電話による 相談 (件数)	健	老人 精神保	社会 復帰	アル コール	薬物	思春 期	心の健康 づくり	うつ 状態	うつ 状態	その他	計	計の再掲				
												り	ひき こも	害 発 達障 害	連 自 殺関 連	害 犯 罪被 害
												り	ひき こも	害 発 達障 害	連 自 殺関 連	害 犯 罪被 害
H20	28	452	62	57	93	1,594			4,120	6,406	125		196	18		
H21	46	1023	79	77	123	1,914	1,189	3,994	8,445	294	112	342	24			
H22	33	947	101	63	159	759	2,510	3,805	8,377	282	270	370	30			
H23	52	1068	79	41	172	2,232	1,757	2,626	8,027	184	145	229	32			
H24	46	1701	69	76	148	2,762	1,164	3,231	9,197	150	154	30	36			

3) 千葉いのちの電話への相談件数

平成 24 年の千葉いのちの電話への相談件数は 21,557 件(男性 8,794 件、女性 12,763 件)であり、男性に対し女性が約 1.45 倍であった。その傾向は前年と同様であった。一方、月に 1 日設けている厚労省後援自殺予防フリーダイヤルへの相談件数は男性 333 件に対し、女性 236 件と男性が女性より多かった。（図 21、図 22 千葉いのちの電話ホームページより転載）

図 21

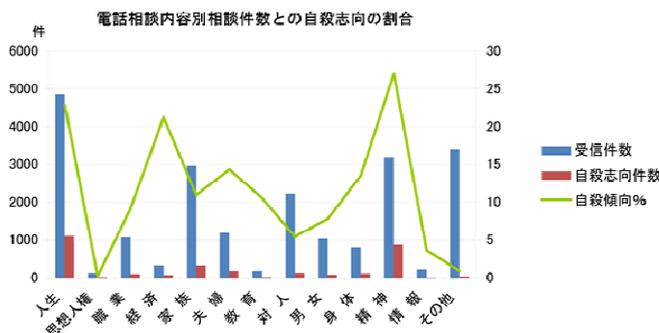


図 22

